

エンドオブライフケア実践者のための コミュニケーション教材

人間看護学部 人間看護学科 教授 糸島 陽子
研究分野 : エンドオブライフケア 生命倫理

エンドオブライフケア実践者が、いつでも、どこでも自学自習できる教材開発に取り組んでいます。今年度は、エンドオブライフに関する教育ニーズの高かったコミュニケーションについて取り組み、『あなたならどうする？エンドオブライフケアのコミュニケーション』を作成しました。

■エンドオブライフに関する教育ニーズ

エンドオブライフケア実践者が、エンドオブライフに関してどのような教育ニーズがあるのか調査をした結果、「患者や家族とのコミュニケーション」「看取りケア（エンゼルケア）」「具体的な実践内容」に関する希望が上位をしめました。そこで、筆者らは、エンドオブライフにある人々とその家族とのコミュニケーション場面を想定したDVDを作成することにしました。

■あなたならどうする？エンドオブライフにある人々と家族とのコミュニケーション

この教材は、病院編・在宅編の全11シーンを収録しています。各シーン5分程度で構成しているため、短時間でも、興味のあるシーンから始めることができます。また、患者情報とコミュニケーションシーンを視聴後、考えてみよう①②を設けています。最後に会話の完成例と注意したいポイントを教示しています。

【病院・患者編】

- ①身体的苦痛のある入院患者
- ②気持ちが落ち込んでいる入院患者
- ③スピリチュアルペインのある入院患者
- ④死について語る入院患者
- ⑤混乱状態にある入院患者

【病院・家族編】

- ①傾眠傾向の強くなった患者を見て心配する家族
- ②無理に食べさせようとする家族
- ③予期悲嘆のある家族
- ④怒りのある家族

【在宅編】

- ①親族に「病院に連れていけ」と言われて困惑する家族
- ②死前喘鳴の出現に困惑する家族



■エンドオブライフケアを実践している・これから実践しようとしている皆さんへ

日本は多死社会をむかえ、病院施設だけでなく在宅や介護保険施設でのエンドオブライフケアの充実が求められています。筆者らは、医療職だけではなく介護職も、学部生だけではなくエンドオブライフケア実践者も、学びなおす機会として、このDVDを提供していきたいと考えています。

また、本学のエンドオブライフケア演習（4月～7月）科目の一部を地域の看護職・介護職に公開していますので、エンドオブライフケアに興味のある方は、是非ご参加ください（事前申し込み）。

<特許・共同研究等の状況>

- ・科学研究費助成（基盤研究C）「エンドオブライフに関するブレンディッド型e-learning教材の開発」
研究代表者